

笠井山へハイキングを計画

春光を楽しむ

日中青年の集いin二〇〇六

日中の青年たちが、これまでにいろいろな形の交流を重ねてきました。旭川河畔でバーベキューをしたり、青年たちに日本の民族衣装・和服を着せて後楽園の散策をしたり、小さい会では蛍の見物に出かけたりなど、豊かさのあふれる岡山の明媚な風光を知ってもらおう機会もつくり、交流のきっかけを作ってきました。

この春も、ハイクを計画。山頂公園でバーベキューを楽しみます。

笠井山は、岡山の市街地が一望でき、遠くは瀬戸内海を望めるところです。

緑あふれる美しい春光の下で、気軽に知り合う機会をつくり、これからも岡山で日本と中国への関心に応える活動を展開していくためのついでです。もちろん、歌やゲームやトークシヨップなどで、力いっぱい楽しむ時間をつくりたいです。



第2回青年交流会より

詳細はこれから作っていきますが、あらまは以下のとおりです。

とき* '06年5月28日(日)

行き先* 岡山市笠井山山頂公園

参加費* 千円(予定)

参加資格は問いませんが、事前の申し込みが必要です。

集合* 津山線 備前原駅前10時

(ここまでは自転車でも電車でも、自由に)

(自転車に参加の人は、岡山大学図書館前に9時半集合)

(電車で参加の人は、岡山駅発9時40分 備前原駅着9時49分着)

(自動車でも、山頂近くへ行けます)

雨天のときは* 京山公民館 和室で参加費は五百円

主催: 日中友好協会岡山支部 青年部

青年部員募集!

476

2006/04/25

温かい人たちの輪

須田さんを送る宴



巧をたたえて支部からお餞別!



須田さん長い間ありがとう! お便りくださいね! お元気で!

須田さんを送る宴は、温かい人たちの輪で埋まりました。心の温まる会でした。協会岡山支部の理事たちはもとより、帰国者のための日本語教室講師の皆さん、中国語講座の講師・受講生の皆さんが集いました。それに加えて、川崎医療福祉大の姜先生、中国の茶芸師の劉英姿さん、山陽新聞解説委員の瀬尾由紀子さんも駆けつけてくださいました。

出席者21人全員が、彼女の姿とそのかわりを語り、今の協会の活動を浮き彫りにもしました。その中で、彼女が果たした活動への賛辞がたくさん語られました。中国語講座最高の「研究クラス」について、その高い中国語の実力で講座運営にかかわってくれたこと。帰国者の日本語教室の講師として、彼らに慕われた彼女の姿もほつきりしました。

異口同音に、去り行く須田さんを惜しむことばが、語られました。これらはみな、多彩な活動を展開してくれた彼女の人柄あつてこのことです。

宴の終わりにには声を合わせて、別れの歌を歌いました。彼女の大好きな「春の唄」や「もだち」を歌い、名残を惜しみました。

15日、須田夫妻は岡山を去りました。

南京からもメッセージ 理事 難波恵司

岡山で、初めて中国語講座でお会いした日の衝撃を、今でもよく覚えております。

非留学経験者でありながら、私よりはるかにうまい中国語の発音で、驚かされました。

その時は、中国北方留学長期経験者ではと、疑ったほどですよ。

今後とも、場所は変わってもネット環境さえあれば、日本人にあまり知られていない南京の生活事情等を送信できますし、南京滞在気分を満喫させていきたいとも思っています。

また、南京にも大阪情報を送ってくださいね、幸いです。

xia ci jian



日本語教室の送別会

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rzhong.web.infoseek.co.jp>
 新・メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp



姜波先生による中国事情 ② 女性の自立と子育て

携帯電話がまた鳴った。番号を確認すると子守をしていた夫からのものだ。今晩はこれで二度目だ。まだ会社なのか？いい加減にしなさい、すぐ帰ると言いながら……夫の小言と傍にいる泣き叫ぶ長女の声が耳元で響く。明日報告会がある。今日はどうしても報告書を仕上げなきゃいけないの……。いつもこんな時間じゃないか。私も好きでこんな時間まで……と李明は声を詰まらせる。

あるコンサルティング会社に勤務している李さんは、生後3ヶ月で長女を保育所に預け、職場復帰した。李さんは家から会社まで片道1時間半かかる上、調査・試案・打ち合わせ・結果報告など、仕事の都合で帰宅時間が遅れたりすることが多い。そのため子どもの送り迎えは、勤務場所が近い夫に任せている。早く帰宅したいのはやまやまだが、どうしても終わらせられない仕事がある。李明さんは近々家政婦を雇うことを考えている。女性の社会進出に伴い、仕事と子育てを両立することが難しいという問題が起こる。これはどの国でも同じことである。

中国では女性の常勤勤務率が90%と高水準である。若年層の家族構成はほとんど夫婦と一人っ子である。子育てと仕事の両立の問題を乗り越えようとするこの手が試されている。まず祖母の育児参加が38%ある。つまり定年した祖父母が子育てをしている母親の味方になるのだ。次は女性の出稼ぎ労働者が家政婦として都会の裕福層の育児や家事の手伝いをするのだ。相場は月に五く六百元(5000円程度)で、割と収入がよくて住宅条件もいい家庭では雇える。李さんのように保育園を利用する家庭が多数を占める。



深圳市家政婦養成学校の学生たちの記念写真

大都会では家政婦の需要が多いことを背景に、北京、上海、広州、大連などの大都会では、民間の家政婦養成学校が多く立ち上げられている。家政婦養成学校の主旨は、都会と農村の女性の自立を支援すること

ろにある。内陸部の農村から女性を募集して、授業料免除、食事代、宿泊費無料で二ヵ月ほど訓練を受けさせるのである。農村と都会の生活環境が違うので、入学してきた人々に家事

(料理作り、洗濯、アイロンかけ)、育児(赤ん坊の世話から、保育園や小学校の送り迎えまで)の方法を覚えてもらうのである。

この事業は婦人連(中央政府に所属する婦人連合会)の後援を受け、女性団体や国内外の企業の資金支援を受けて運営されている。婦人連合会とは、女性や児童の権利を守り、家庭内でのいざこざを仲裁し、子どもの健全な発達を図り、女性の自立を促進する組織である。

北京市の家政婦養成学校で訓

練を受けている蘭蘭(18歳)は河北省の農村から出て来た。

北京に来る前はお金がないという理由で小学校を卒業後、農作業の手伝いをしてきた。

家政婦養成学校に応募したのは現金収入がほしかったからだという。都会で何年か働いてお金をため、将来故郷に帰って小さなお店を持ちたいと彼女

は抱負を語った。

農村の女性は農作業や家事手伝いが主流で、現金収入が決して多いわけではない。この家政婦養成制度は、都会女性の育児の助けとなるだけでなく、蘭蘭のように自立しようとする農村女性の助けともなるのだ。

(川崎医療福祉大学教授・社会学)

輝け 日本国憲法！集会

講演* 安保と9条：在日米軍再編協議とは何か

我部 政明さん
ライブ* 権力者の無能を笑う

松崎 菊也さん

とき*2006年5月3日(水) 13時半

ところ*三木記念ホール(古京町1の1の10)

参加費*前売り 千円 当日千二百円

長岡日本語教室

土曜日講座始まる

二〇〇六年四月一日(土)長岡日本語教室の土曜日講座が、県営住宅の集会所で始まりました。

この教室は、午前の部(十時～十二時)と夕方の部(五時三十分～七時三十分)の二回に分かれて行われています。

午前の部の中級(一年以上日本語を学んでいる人)を岩間講師、初級(日本語を学び始めて三ヵ月以内の人)を赤木講師が、担当しています。

中級は、みんなの日本語、初級は手作りの教材をテキストに使っています。夕方の部は、小林講師が漢字検定問題集をテキストに、若い人々を対象に行っています。この講座は、次の二つの理由から開設されました。

一つは、高島の土曜日の夜(六時三十分～八時三十分)の講座が、講師の都合と受講者の減少により、続けることが困難になったためです。

二つには、長岡地区の働き出した若い人が参加できる曜日、時間帯及びレベルの高い内容をくるとの要望に応えるためです。

今年度は、これまで以上に講師、受講者の要望を聞きながら内容を充実・発展させていきたいと思っています。

日本語教室は、講師と受講者の一対一が理想です。

現在では講師の数が足りません。特に高島水曜日夜が不足しています。ご協力いただける方は、ご連絡ください。



岡山市江崎一六九一六
小林軍治方
電・〇八六一二七七―二四七〇

短信

これからの活動



- * 5月20(日) 第55回日中友好協会全国大会
- * 5月24日(水) 残留孤児訴訟 第10回口頭弁論 (岡山地裁)
- * 5月28日(日) 第5回日中青年交流会
- 笠井山ハイク バーベキュー
- * 6月11日(日) 日中友好協会協会岡山支部 新年度総会 (コムコム・ホール)
- * 6月24日(土) 姜波氏講演会

- 男女共同参画協同事業協賛 第77回文化講座
- 日本と中国の子育て (さんかく岡山)
- * 7月5日(水) 残留孤児訴訟 第11回口頭弁論 (岡山地裁)

次回の新聞送作業は
5月1日(月)午後1時半
民主会館2階で行ないます。
前回お手伝いくださった方々
です。

和 林山内内井垣
小澤竹竹坪三